

# 事務職員の仲間が随所に活躍

## 笑いと涙の都教組大会報告

5月15日「座・高円寺」にて第97回都教組定期大会が開かれました。大会は「若い世代とともに築こう 都教組の未来を」をスローガンにかかげました。発言にたつ若い組合員のはつらつとした姿が印象的で、スローガンのとおり、未来に大いなる期待をいだかせる感動的な大会となりました。

事務職員の仲間も随所に活躍しました。亀井部長が都教組事務職員部として発言、山木副部長は八王子での事務職員に関わる問題について発言しました。さらに土屋常任委員が議長の大役をつとめました。また北多摩西支部・小川代議員は、全教・都教組共済審査委員長の立場から共済加入の推進をうったえました。その他、代議員、傍聴に事務職員の仲間が各支部より参加し、大会を盛りあげました。

6月25日開催予定の都教組事務職員部大会も、引きつづき、大きく成功させるようにとりくんでいきましょう。

### 亀井部長の発言

数年前の大会で、みなさんの学校には事務職員が何人いますか？とたずねたことがあります。欠員の問題と再任用短時間職員の増加が、学校現場に与えている影響をみなさんに考えてもらい、その問題解決を都教組全体の課題としてとりくんでほしいとうったえたからです。しかし、欠員はいつこうに解消せず、今年度も約500名を数えています。また、再任用職員も年々増加し、学校事務職員全体の20%に近づいています。週1日事務職員がいない学校では、さまざまな影響が出ています。



都教委は私たちの声に耳をかさず、時間休の取得制限と「標準的職務」のおしつけを強行しました。時間休取得は教員等については従来どおりとしたにもかかわらず、行政系職員への制限を実施したことは、学校現場にまたしても差別分断をもちこんだ

ものとして、絶対に許せません。今後は、制限の撤廃をもとめていくとともに、新たな休暇制度の整備など、だれでも安心して働きつづけられる制度の確立を、都労連・都教組と一体になってとりくんでいきます。

つづいて「標準的職務」の問題について発言します。

1月29日に都教委は各地教委に対して、学校事務職員の「標準的職務」を設定するよう通知しました。都教委が示した「標準的職務」の内容は多岐にわたり、一人の事務職員ではどういてできるものではありません。また現在、副校長が担当している仕事も多く含まれており、「副校長の多忙化解消」をねらいとしていることは明白です。私たちは副校長の下請けをしているわけではありません。

学校の中での事務職員の役割を無視した今回の提案に従うことはできません。しかし地教委へ文書が降りており、現在、各地で「検討会」などを発足し「話し合い」が始まっています。また一部の校長が「いさみ足」的に事務職員へ「標準的職務」を押しつけている職場も出てきています。今後は各支部でのとりくみが重要になってきます。各支部では、事務職員部とともに押しつけに反対するとりくみを、いっそう強めていただきたいと思います。

定数という標準は無視して、学校規模や事務職員の経験年数、区市町村費事務職員の配置形態などさまざまであり、とても「標準化」できないことは明白です。多忙化の根本的原因を追究しない都教委の姿勢こそ問題であり、多忙化を事務職員に押しつけることはどう考えてもおかしいことです。

都教組事務職員部は、このような攻撃をはね返すために、さらにたたかいを強く大きくしていく決意です。みなさん、ともにがんばりましょう。

## 都教組事務職員部大会

6月25日金曜日 午後2時開会 場所 エデュカス東京7階

年に一度の大会です。みなさんぜひご参加下さい。

☆前日6月24日に議案書作りなどの準備作業があります。お手伝いできる方はぜひご参加ください。

全国の仲間の助け合いが実感できる心温まる共済です。 全教・都教組共済